

● 貸借対照表

(資産の部)

(単位：百万円)

科目	年度別	2018年度末	2019年度末
現金預け金		17,035	13,540
現金		2,690	3,464
預け金		14,344	10,076
有価証券		62,732	59,492
国債		4,965	4,901
地方債		7,722	7,633
社債		26,131	25,694
株式		8,139	5,885
その他の証券		15,773	15,376
貸出金		181,287	183,625
割引手形		1,055	806
手形貸付		10,627	12,565
証書貸付		159,499	159,500
当座貸越		10,104	10,751
その他資産		892	570
前払費用		14	23
未収収益		203	169
その他の資産		674	377
有形固定資産		2,722	2,477
建物		561	493
土地		1,891	1,710
建設仮勘定		—	35
その他の有形固定資産		269	237
無形固定資産		468	405
ソフトウェア		435	394
その他の無形固定資産		33	11
繰延税金資産		—	86
支払承諾見返		784	745
貸倒引当金		△3,108	△2,887
資産の部合計		262,813	258,056

(負債及び純資産の部)

(単位：百万円)

科目	年度別	2018年度末	2019年度末
預金		230,416	229,313
当座預金		1,894	1,812
普通預金		98,117	102,978
貯蓄預金		546	527
通知預金		226	184
定期預金		127,485	121,772
定期積金		1,455	1,477
その他の預金		691	558
借入金		15,300	12,200
借入金		15,300	12,200
その他負債		947	1,621
未払法人税等		69	20
未払費用		421	341
前受収益		174	201
給付補填備金		0	0
資産除去債務		2	2
その他の負債		278	1,055
賞与引当金		79	53
役員退職慰労引当金		68	79
睡眠預金払戻損失引当金		152	130
繰延税金負債		390	—
再評価に係る繰延税金負債		274	236
支払承諾		784	745
(負債の部合計)		(248,414)	(244,380)
資本金		2,679	2,679
資本剰余金		1,259	1,259
資本準備金		1,259	1,259
利益剰余金		8,024	8,430
利益準備金		867	894
その他利益剰余金		7,156	7,535
別途積立金		4,367	4,367
繰越利益剰余金		2,789	3,168
自己株式		△70	△71
株主資本合計		11,892	12,297
その他有価証券評価差額金		1,959	881
土地再評価差額金		547	496
評価・換算差額等合計		2,506	1,377
(純資産の部合計)		(14,399)	(13,675)
負債及び純資産の部合計		262,813	258,056

コンプライアンス
(法令等遵守)

リスク管理

地域密着型金融
の取り組み状況

事業の概況

主要な業務
の内容

役員一覧・
組織図

資本・株式・
従業員の状況

財務諸表

損益の状況

営業の状況

各種経営指標

パーゼルⅡ
(第3の柱)に
基づく開示事項

報酬等に
関する開示事項

店舗
A T M
一覧

● 損益計算書

(単位：百万円)

科目	年度別	2018年度	2019年度
経常収益		5,549	5,896
資金運用収益		4,534	4,754
貸出金利息		3,668	3,803
有価証券利息配当金		854	939
預け金利息		10	10
その他の受入利息		0	0
役務取引等収益		701	617
受入為替手数料		194	200
その他の役務収益		507	416
その他業務収益		30	172
外国為替売買益		0	—
国債等債券売却益		30	172
国債等債券償還益		0	0
その他経常収益		283	352
株式等売却益		187	173
その他の経常収益		95	179
経常費用		5,145	5,798
資金調達費用		142	131
預金利息		142	131
役務取引等費用		683	712
支払為替手数料		28	29
その他の役務費用		654	683
その他業務費用		130	260
外国為替売買損		—	0
国債等債券売却損		129	258
国債等債券償還損		1	1

(単位：百万円)

科目	年度別	2018年度	2019年度
営業経費		3,633	3,604
その他経常費用		556	1,089
貸倒引当金繰入額		244	303
株式等売却損		184	434
株式等償却		—	311
その他の経常費用		127	39
経常利益		403	98
特別利益		12	464
固定資産処分益		12	464
特別損失		79	45
固定資産処分損		3	0
固定資産圧縮損		—	16
減損損失		76	29
税引前当期純利益		336	516
法人税、住民税及び事業税		131	59
法人税等調整額		△52	△28
法人税等合計		79	30
当期純利益		256	485

コンプライアンス
(法令等遵守)

リスク管理

地域密着型金融
の取り組み状況

事業の概況

主要な業務
の内容

役員一覧・
組織図

資本・株式・
従業員の状況

財務諸表

損益の状況

営業の状況

各種経営指標

パブリック
(第3の柱)に
基づく開示事項

報酬等に
関する開示事項

店舗
ATM
一覧

●株主資本等変動計算書

2018年度

(単位：百万円)

	株 主 資 本					
	資 本 金	資本剰余金		利益剰余金		利益剰余金合計
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金		
				別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	2,679	1,259	840	4,367	2,633	7,841
当期変動額						
利益準備金の積立			27		△27	—
剰余金の配当					△131	△131
当期純利益					256	256
自己株式の取得						
土地再評価差額金の取崩					57	57
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						
当期変動額合計	—	—	27	—	155	182
当期末残高	2,679	1,259	867	4,367	2,789	8,024

(単位：百万円)

	株 主 資 本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土 地 再 評 価 差 額 金	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	
当期首残高	△68	11,712	2,527	604	3,132	14,844
当期変動額						
利益準備金の積立		—				—
剰余金の配当		△131				△131
当期純利益		256				256
自己株式の取得	△2	△2				△2
土地再評価差額金の取崩		57				57
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			△568	△57	△625	△625
当期変動額合計	△2	180	△568	△57	△625	△445
当期末残高	△70	11,892	1,959	547	2,506	14,399

2019年度

(単位：百万円)

	株 主 資 本					
	資 本 金	資本剰余金		利益剰余金		利益剰余金合計
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金		
				別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	2,679	1,259	867	4,367	2,789	8,024
当期変動額						
利益準備金の積立			27		△27	—
剰余金の配当					△131	△131
当期純利益					485	485
自己株式の取得						
土地再評価差額金の取崩					51	51
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						
当期変動額合計	—	—	27	—	378	405
当期末残高	2,679	1,259	894	4,367	3,168	8,430

(単位：百万円)

	株 主 資 本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土 地 再 評 価 差 額 金	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	
当期首残高	△70	11,892	1,959	547	2,506	14,399
当期変動額						
利益準備金の積立		—				—
剰余金の配当		△131				△131
当期純利益		485				485
自己株式の取得	△0	△0				△0
土地再評価差額金の取崩		51				51
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			△1,077	△51	△1,128	△1,128
当期変動額合計	△0	405	△1,077	△51	△1,128	△723
当期末残高	△71	12,297	881	496	1,377	13,675

コンプライアンス
（法令等遵守）
リスク管理
地域密着型金融
の取り組み状況
事業の概況
主要な業務
の内容
役員一覧・
組織図
資本・株式・
従業員の状況
財務諸表
損益の状況
営業の状況
各種経営指標
パーセルⅡ
（第3の柱）に
関する開示事項
報酬等に
一店舗ATM

● キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	年度別	2018年度	2019年度
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前当期純利益		336	516
減価償却費		163	226
固定資産圧縮損		—	16
減損損失		76	29
貸倒引当金の増減 (△)		12	△221
賞与引当金の増減額 (△は減少)		12	△25
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)		7	10
睡眠預金払戻損失引当金の増減 (△)		15	△22
資金運用収益		△4,534	△4,754
資金調達費用		142	131
有価証券関係損益 (△)		98	660
為替差損益 (△は益)		△0	0
固定資産処分損益 (△は益)		△9	△464
貸出金の純増 (△) 減		2,897	△2,338
預金の純増減 (△)		4,952	△1,103
借入金 (劣後特約付借入金を除く) の純増減 (△)		△912	△3,100
資金運用による収入		4,562	4,823
資金調達による支出		△100	△176
その他		△217	1,092
小 計		7,504	△4,698
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)		△96	△176
営業活動によるキャッシュ・フロー		7,408	△4,875
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有価証券の取得による支出		△8,190	△10,429
有価証券の売却による収入		5,971	7,930
有価証券の償還による収入		2,803	3,512
資産除去債務の履行による支出		△1	—
有形固定資産の取得による支出		△107	△104
有形固定資産の売却による収入		77	647
無形固定資産の取得による支出		△319	△43
投資活動によるキャッシュ・フロー		232	1,512
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
自己株式の取得による支出		△2	△0
配当金の支払額		△131	△130
財務活動によるキャッシュ・フロー		△133	△131
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額		0	△0
V 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)		7,508	△3,494
VI 現金及び現金同等物の期首残高		9,527	17,035
VII 現金及び現金同等物の期末残高		17,035	13,540

(コンプライアンス
法令等遵守)

リスク管理

地域密着型金融
の取り組み状況

事業の概況

主要な業務
の内容

役員一覧・
組織図

資本・株式・
従業員の状況

財務諸表

損益の状況

営業の状況

各種経営指標

パーゼルⅢ
(第3の柱)に
基づく開示事項

報酬等に
関する開示事項

店舗
ATM
一覧

2019年度 注記事項

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(重要な会計方針)

1. 商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法（売却原価は移動平均法により算定）により行っております。

なお、商品有価証券は保有しておりません。
2. 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、その他有価証券のうち時価のある株式及び投資信託については原則として決算期末月1ヵ月の市場価格等の平均に基づく時価法（売却原価は移動平均法により算定）、時価のある株式及び投資信託以外については原則として決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は移動平均法により算定）、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
3. 固定資産の減価償却の方法
 - (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

有形固定資産は、定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物：6年～47年

その他：3年～20年
 - (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。
 - (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

なお、該当するリース資産はありません。
4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産については、決算日の為替相場による円換算額を付しております。

なお、外貨建負債は保有しておりません。
5. 引当金の計上基準
 - (1) 貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」（日本公認会計士協会銀行等監査特別委員会報告第4号 2020年3月17日）に規定する正常先債権及び要注意先債権に相当する債権については、主として今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、1年間又は3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加え算定しております。破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち必要と認める額を計上しております。破綻先債権及び実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署の協力の下に資産査定部署が資産査定を実施しております。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の拡大により経済活動が制限され、先行き不透明感が強まっています。当行におきましては、貸倒引当金の計算基礎となる債務者区分を決定する際、現時点で見積りに影響を及ぼす入手可能な情報を考慮して決定しております。今後1年程度、債務者区分を決定する際、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が続くと想定し、当行の貸出金等の信用リスクに一定の影響があるとの仮定を置いています。当該仮定には不確実性があり、新型コロナウイルス感染症の状況や経済への影響が変化した場合には、損失額が増加する可能性があります。

(2) 賞与引当金

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見込額のうち、当事業年度末までに発生していると認められる額を計上しております。

(4) 睡眠預金払戻損失引当金

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り、必要と認められる額を計上しております。

6. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金および預入期間が3ヵ月以内の預け金であります。

7. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税（以下、「消費税等」という。）の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当事業年度の費用に計上しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日）

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

- ステップ1：顧客との契約を識別する。
- ステップ2：契約における履行義務を識別する。
- ステップ3：取引価格を算定する。
- ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。
- ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当財務諸表の作成時において評価中でありませぬ。

コンプライアンス
(法令等遵守)

リスク管理

地域密着型金融
の取り組み状況

事業の概況

主要な業務
の内容

役員一覧
・
組織図

資本・株式
・
株員の状況

財務諸表

損益の状況

営業の状況

各種経営指標

パーゼルⅢ
(第3の柱)に
基づく開示事項

報酬等に
関する開示事項

店舗
A T M
一覧

- ・「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日)
- ・「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2019年7月4日)
- ・「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)
- ・「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日)

(1) 概要

国際的な会計基準の定めとの比較可能性を向上させるため、「時価の算定に関する会計基準」及び「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(以下「時価算定会計基準等」という。)が開発され、時価の算定方法に関するガイダンス等が定められました。

時価算定会計基準等は次の項目の時価に適用されます。

- ・「金融商品に関する会計基準」における金融商品
また「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」が改訂され、金融商品の時価のレベルごとの内訳等の注記事項が定められました。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当財務諸表の作成時において評価中でありませ

- ・「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)

(1) 概要

当年度の財務諸表に計上した金額が会計上の見積りによるもののうち、翌年度の財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性が高い項目における会計上の見積りの内容について、財務諸表利用者の理解に資する情報を開示することを目的とするものであります。

(2) 適用予定日

2021年3月期の年度末より適用予定であります。

- ・「会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 2020年3月31日)

(1) 概要

関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に、採用した会計処理の原則及び手続の概要を示すことを目的とするものであります。

(2) 適用予定日

2021年3月期の年度末より適用予定であります。

(貸借対照表関係)

1. 貸出金のうち破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。

破綻先債権額	13百万円
延滞債権額	4,099百万円

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(1965年政令第97号)第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

2. 貸出金のうち3ヵ月以上延滞債権額は次のとおりであります。

3ヵ月以上延滞債権額	205百万円
------------	--------

なお、3ヵ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

3. 貸出金のうち貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。

貸出条件緩和債権額	234百万円
-----------	--------

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以上延滞債権に該当しないものであります。

4. 破綻先債権額、延滞債権額、3ヵ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。

合計額	4,553百万円
-----	----------

なお、上記1.から4.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

5. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 2002年2月13日)に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

	806百万円
--	--------

6. ローン・パーティシペーションで、「ローン・パーティシペーションの会計処理及び表示」(日本公認会計士協会会計制度委員会報告第3号 2014年11月28日)に基づいて、原債務者に対する貸出金として会計処理した参加元本金額のうち、貸借対照表計上額は次のとおりであります。

	121百万円
--	--------

7. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産	
有価証券	17,064百万円

担保資産に対応する債務	
借入金	12,200百万円

上記のほか、為替決済の取引の担保として、次のものを差し入れております。

有価証券	3,543百万円
------	----------

また、その他の資産には、保証金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

保証金	53百万円
-----	-------

なお、手形の再割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 2002年2月13日)に基づき金融取引として処理しておりますが、これにより引き渡した商業手形はありません。

8. 当座貸越契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高	14,370百万円
うち原契約期間が1年以内のもの	10,700百万円

なお、これらの契約の多くは融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高高のものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

9. 土地の再評価に関する法律（1998年3月31日公布法律第34号）に基づき、事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日 1998年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令（1998年3月31日公布政令第119号）第2条第4号に定める地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が公表した方法により算定した価額に基づいて、時点の修正、画地修正等、合理的な調整を行って算出しております。

同法律第10条に定める再評価を行った事業用の土地の期末における時価の合計額と当該事業用の土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額

674百万円

10. 有形固定資産の減価償却累計額
減価償却累計額 3,054百万円
11. 有形固定資産の圧縮記帳額
圧縮記帳額 211百万円
(当事業年度圧縮記帳額) (16百万円)
12. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額 1,505百万円
13. 取締役との間の取引による取締役に対する金銭債権総額 0百万円
(本件は取締役会の承認を得ております)

(損益計算書関係)

1. 営業経費には、次のものを含んでおります。
- | | |
|-------|----------|
| 給料・手当 | 1,666百万円 |
| 減価償却費 | 226百万円 |
2. その他の経常費用には、次のものを含んでおります。
- | | |
|-------|-------|
| 債権売却損 | 23百万円 |
|-------|-------|
3. 減損損失
当事業年度において、保有目的の変更等により、以下の資産について回収可能価額まで減額し、当該減少額29百万円を減損損失として特別損失に計上しております。

地域	用途	種類	金額
佐賀県内	遊休資産1か所	土地、建物	29百万円
合計			29百万円

当行は、グループの単位は営業店単位としております。ただし、将来の使用が見込まれていない遊休資産については、個々の物件単位でグループ化しております。また、本部等銀行等全体に関連する資産については共用資産としております。回収可能価額は、正味売却価額と使用価値のいずれか高い方としており、正味売却価額による場合は路線価等の市場価格を適切に反映している指標に基づき、使用価値による場合は将来キャッシュ・フローを1.48%で割り引いて、それぞれ算定しております。

(株主資本等変動計算書関係)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：株)

	当事業年度 期首株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	22,034,500	—	—	22,034,500	
合計	22,034,500	—	—	22,034,500	
自己株式					
普通株式	170,400	2,087	—	172,487	(注)
合計	170,400	2,087	—	172,487	

(注) 普通株式の自己株式の増加2,087株は単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 当事業年度中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力 発生日
2019年 6月26日 定時株主総会	普通株式	65	3.0	2019年 3月31日	2019年 6月27日
2019年 11月12日 取締役会	普通株式	65	3.0	2019年 9月30日	2019年 11月28日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が当事業年度の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の 原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力 発生日
2020年 6月25日 定時株主総会	普通株式	87	利益 剰余金	4.0	2020年 3月31日	2020年 6月26日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金預け金勘定	13,540百万円
現金及び現金同等物	13,540百万円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当行は、預金業務、貸出業務、国内為替業務の他、代理業務、国債等公共債及び証券投資信託の窓口販売、保険商品の窓口販売等の銀行業務を行っております。資金運用手段は国内の取引先及び個人への貸出金であり、余剰資金については安全性の高い金融資産にて運用しております。資金調達手段は主に預金であり、コールマネー、借入金、社債等であり、これらについては金利変動のリスクを有しているため、総合的管理（ALM）により取組方針を決定しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当行が保有する金融資産は、主として国内の取引先及び個人に対する貸出金であり、顧客の債務不履行によってもたらされる信用リスクに晒されております。

有価証券は、株式、債券、投資信託及び組合出資金であり、目的別に売買目的、満期保有目的、その他有価証券（売買・満期保有以外の目的）に分類して保有しており、各々が発行体の信用リスク、金利の変動リスク及び市場価格の変動リスクに晒されております。

また、当行が有する金融負債は主として預金、コールマネー、日本銀行からの借入金、社債であり、支払期日にその支払いを実行できなくなる流動性リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（信用供与先の財務状況の悪化等により、資産（オフバランス資産を含む）の価値が減少または消失し、当行が損失を被るリスク）の管理

当行は、与信業務の基本的な理念・指針・規程等を明示した「融資審査の規程（クレジットポリシー）」に基づき、健全な資産の充実を図るため、債務者毎に財務内容、信用格付、与信額等についてのモニタリングを実施し、定期的に取り締り会へ報告しています。また、一定金額以上の案件については「融資権限規程」に基づき、信用格付毎に決裁権限額を定め、これを超過する案件については経営陣を含めた会議上で取組方針を決定し、信用リスクを的確に認識・評価する体制を整備しております。

信用リスクに関わる管理は、営業推進部門（営業統括部）と審査管理部門（融資統括部）とを分離し、相互牽制機能を確認することで適正な与信管理体制の構築を行うこととし、さらに与信監査部門（監査部）による与信管理状況の監査を実施しております。

有価証券は売買目的債券、満期保有債券は格付の高い債券のみを対象としているため、信用リスクは僅少であります。また、その他有価証券についても格付の高い証券を対象とし、また、保有限度を定めリスクの分散を図っております。

② 市場リスク（市場価格、金利等の変動リスク）の管理

当行は、「市場リスク管理方針」を定め、市場リスクに係るリスクを把握し、これを当行として取り得る許容範囲に収めることによりリスクを限定し、適切な管理態勢の維持・向上に努めております。計測かつ管理が可能なリスクについては、能動的に一定のリスクを取り、収益機会を捉えています。計測または管理が不可能なリスクは回避することを基本としています。

金利リスクについては、ALMによってギャップ分析や金利感応度分析等を用いてリスク量をモニタリングし、月次ベースでALM委員会へ、また、四半期ベースで取締役会へ報告しております。なお、金利変動リスクをヘッジするデリバティブ取引は行っておりません。

価格変動リスクについては、「有価証券運用規程」ならびに「同細則」に基づき、ALM委員会にて継続的に市場環境や財務状況をモニタリングしており、リスクの把握に努めております。

業務の運営にあたっては、可能な限りリスク量を把握し、迅速な対応が図れる体制とし、かつ、フロントオフィス（市場部門：資金証券部市場金融グループ）・バックオフィス（事務管理部門：資金証券部資金管理グループ）・ミドルオフィス（リスク管理部門：資金証券部資金管理グループ、ALM委員会）に分離した体制とし、相互牽制の機能強化を図っております。

預金・コールマネー・借入金・社債・貸出金・有価証券の市場リスク量の計測については、分散共分散法によるVaRを採用しており、計測モデルを使用して算出しております。また、それぞれの定量基準は、預金・コールマネー・借入金・社債・貸出金が観測期間5年、保有期間1年、信頼区間99%、有価証券が観測期間1年、保有期間3ヵ月、信頼区間99%を基準として採用しております。

上記の計測手法による2020年3月31日現在の市場リスク量は、預金・コールマネー・借入金・社債・貸出金が114百万円、有価証券が4,070百万円、合計で4,184百万円となり、評価益を考慮した場合の市場リスク量は、有価証券が3,581百万円、合計が3,695百万円となります。

計測したVaRと実際の損益を比較するバック・テストを実施した結果、預金・コールマネー・借入金・社債・貸出金、有価証券それぞれで使用している計測モデルは十分な精度を確保していると考えております。

ただし、当該リスク量は過去の相場変動に基づき統計的に算出した一定の発生確率での市場リスク量を算出しているため、通常では考えられないほど市場環境が激変する状況下におけるリスク量は捕捉できない場合があります。

③ 流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当行は「流動性リスク管理方針」に基づき、ALM委員会において「緊急時の資金繰り」及び「向こう3ヶ月の予想」を分析し、リスクコントロールを図っております。

また、流動性リスクを資金繰りリスク（運用と調達の間 mismatches や予期せぬ資金の流出により、必要な資金確保が困難になる、又は、通常よりも著しく高い金利での資金調達を余儀なくされることにより損失を被るリスク）と、市場流動性リスク（市場の混乱等により市場において取引ができなくなる、通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされるなどにより損失を被るリスク）と定義し、資金繰り管理部門（資金証券部資金管理グループ）と流動性リスク管理部門（資金証券部市場金融グループ）へ分離した組織体制を構築し相互牽制機能を確認しております。

資金繰りリスクについては、資金証券部資金管理グループが作成する「週間資金繰り予定表」をもとにした大口資金移動等による資金繰りへの影響度の把握に加え、内部環境・外部環境の情報を総合的に分析して資金繰りを予測し、リスクの軽減に努めております。また、万一資金繰りが危機事態に陥った場合でも、「コンティンジェンシープラン」を策定し、緊急時における態勢も整備しています。

市場流動性リスクについては内部環境・外部環境の動向を分析・評価し、リスクの所在・影響を把握するとともに、分析結果を資金繰り管理部門へ還元しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません（注2）参照。

（単位：百万円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金預け金	13,540	13,540	—
(2) 有価証券			
満期保有目的の債券	—	—	—
その他有価証券	59,334	59,334	—
(3) 貸出金	183,625		
貸倒引当金（*）	△2,868		
	180,756	183,157	2,400
資産計	253,631	256,032	2,400
(1) 預金	229,313	229,487	174
(2) 借入金	12,200	12,200	—
負債計	241,513	241,687	174

（*）貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

（注1）金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 現金預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金については、預入期間が短期間（1年以内）であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(2) 有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。投資信託は、公表されている基準価格によっております。

自行保証付私債の時価は、元利金の合計額をリスクフリー・レートに信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(3) 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異ならない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、貸出金の種類及び内部格付、期間に基づく区分毎に、元利金の合計額を期間別の無リスクの市場利子率に信用リスク相当分を調整した利率で割り引いて時価を算定しております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は決算日における貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。

負債

(1) 預金

要求払預金については、決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしております。また、定期預金の時価は、一定の期間毎に区分して、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定しております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。

(2) 借入金

借入金のうち、固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該借入金の元利金の合計額を同様の借入において想定される利率で割り引いて現在価値を算定しております。なお、約定期間が短期間（1年以内）のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「資産（3）その他有価証券」には含まれておりません。

（単位：百万円）

区分	2020年3月31日
① 非上場株式（*1）（*2）	148
② 組合出資金（*3）	9
合計	157

（*1）非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしていません。

（*2）当事業年度において、非上場株式の減損処理額は14百万円です。

（*3）組合出資金のうち、組合財産が非上場株式など時価を把握することが極めて困難と認められるもので構成されているものについては、時価開示の対象とはしていません。

（注3）金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額
（単位：百万円）

	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
預け金	10,076	—	—	—	—	—
有価証券	—	—	—	—	—	—
満期保有目的の債券	—	—	—	—	—	—
うち国債	—	—	—	—	—	—
地方債	—	—	—	—	—	—
社債	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—
その他有価証券のうち満期があるもの	3,400	13,585	17,822	4,455	5,977	4,616
うち国債	202	2,455	1,129	205	—	908
地方債	—	2,447	3,485	712	—	988
社債	2,308	6,405	10,681	1,400	2,282	2,615
その他	889	2,276	2,527	2,137	3,695	103
貸出金（*）	31,877	27,693	21,040	15,915	17,963	42,873
合計	45,354	41,279	38,863	20,371	23,941	47,490

（*）貸出金のうち、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等、償還予定額が見込めない25,760百万円、期間の定めのないもの500百万円は含めておりません。

（注4）借入金及びその他の有利子負債の決算日後の返済予定額

（単位：百万円）

	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
預金（*）	182,109	34,249	12,954	—	—	—
借入金	12,200	—	—	—	—	—
合計	194,309	34,249	12,954	—	—	—

（*）預金のうち、要求払預金については、「1年以内」に含めて開示しております。

（退職給付関係）

1. 採用している退職給付制度の概要

当行は、2014年4月1日付で、確定給付企業年金制度を廃止し、確定拠出制度へ移行しております。

2. 確定給付制度

該当事項はありません。

3. 確定拠出制度

当行の確定拠出制度への要拠出額は、91百万円です。

（ストック・オプション等関係）

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳	
繰延税金資産	
貸倒引当金	860百万円
有価証券評価損	65百万円
減価償却費	30百万円
その他	230百万円
繰延税金資産小計	1,187百万円
評価性引当額(注)	△683百万円
繰延税金資産合計	504百万円
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	△417百万円
繰延税金負債合計	△417百万円
繰延税金資産(負債)の純額	86百万円
(注) 評価性引当額が125百万円減少しております。主な内容は、個別貸倒引当金に係る評価性引当額、有価証券評価損に係る評価性引当額の減少によるものであります。	
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳	
法定実効税率	30.4%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.2%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△2.8%
住民税均等割等	2.3%
評価性引当額の増減	△24.2%
その他	0.0%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	5.9%

(資産除去債務関係)

資産除去債務の総額に重要性が乏しいことから、記載を省略しております。

(持分法損益等)

1. 関連会社に関する事項
当行は関連会社がないため、「持分法損益等」の該当事項はありません。
2. 開示対象特別目的会社に関する事項
当行は開示対象特別目的会社がないため、「持分法損益等」の該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当行は、銀行業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(関連情報)

1. サービスごとの情報
当行は、銀行業として単一のサービスを提供しているため、記載を省略しております。
2. 地域ごとの情報
 - (1) 経常収益
当行は、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。
 - (2) 有形固定資産
当行は、本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。
3. 主要な顧客ごとの情報
特定の顧客に対する経常収益で損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当行は、銀行業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

関連当事者との取引について記載すべき重要なものはありません。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額	625.55円
1株当たり当期純利益	22.22円
(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。	
純資産の部の合計額	13,675百万円
純資産の部の合計額から控除する金額	一百万円
普通株式に係る期末の純資産額	13,675百万円
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数	21,862千株
2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、次のとおりであります。	
1株当たり当期純利益	
当期純利益	485百万円
普通株主に帰属しない金額	一百万円
普通株式に係る当期純利益	485百万円
普通株式の期中平均株式数	21,862千株
3. なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないので記載しておりません。	

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2018年度の財務諸表及び2019年度の財務諸表については、会社法第396条第1項及び金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、EY新日本有限責任監査法人の監査を受けております。